

Title	平尾道雄君の疑問に答ふ
Sub Title	
Author	千葉, 彌一郎(Chiba, Yaichiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1930
Jtitle	史学 Vol.9, No.2 (1930. 6) ,p.18(190)- 18(190)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300600-0018">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300600-0018</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## ○平尾道雄君の疑問に答ふ

文久三年二月八日江戸を發し、二十三日京都に著したる浪士組は、總數二百三十四人である。内近藤勇の一派及芥澤鴨等計十三名清河八郎と議合はず京都に残存し、外に母病氣の爲歸國したる池田徳太郎の拾四名を除き、三月二十八日江戸に歸著したる人員は、二百二十人である。會津藩の重役田中土佐横山主税兩氏の書信に残留者二十四人とあれば、拾壹人の差を生じ江戸に歸著せし人員は、二百〇九名とならなければならぬ。然るに歸府したる人名簿に依れば二百二十名明細に掲げてある。

老生は既刊の著書には餘り重きを措かず、亦前記の人員に差のある事は左のみ興味を感じざれば、深く立入つて研究する考もない、併し何れの説に據るか云へば矢張十三人説を以て事實と認むるものである。

各方面の人々より當時の浪士人名簿なるものを示され實否を問はるゝ事あれども、三冊は三色で一定して居らぬ、其一定せぬ處に尤興味がある様に思ふ。夫は何れも確かなるもので唯筆記せし時を同ふせざるが爲め何れも現在を記せし爲め早きものは人數が多く後のものは人數が減じて居るのである。

近藤等の殘存組は、残りし當日會津藩に屬せしものにあざれば、會津藩に屬する當時は二十四人に増加して居つたのではないかと推定されるのである。

若し此説を研究せんと欲せば、二十四人中十三名を除きたる十一人が、江戸出發當時の二百三十四人の中に加し居りたる者か否を調査すれば容易に判明することと思ふ。果して加入し居れば二十四人説に權威あるとして十三人説を排斥して可なり。若し加入して居らざれば十三人説が權威ある史料と云ふて可なり。(千葉彌一郎)……「史學」八卷四號餘白録參照……